

# 2023 年度 G T セミナー GT サミット 2023②

第338号 2023年8月21日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社カギヤ 奥山卓矢

## GT サミット②

2023年8月7日～8日に「GT サミット 2023」を  
開催しました。

全国の GT 園の園長先生方にご参加頂き、数年ぶりにお会いする  
園長先生方同士の笑顔が会場に溢れていました。

今回、オンライン参加でご参加いただいた先生方も、  
ぜひ来年は会場でご参加ください～！

本誌含め、3回に分けて GT サミット 2023 の内容をお送りする  
第2弾です。

### 【セミナープログラム】

#### 8月7日(月) セミナー1日目

- 13:30～15:30 渡邊寛子様(保育園を考える親の会代表) ご講演
- 15:30～15:50 休憩
- 15:50～17:50 藤森代表 ご講演
- 18:00 1日目終了

#### 8月9日(火) セミナー2日目

- 9:30～11:30 実践発表
- 11:30～13:00 昼食
- 13:00～15:00 Q&A
- 15:00 2日目終了

見守る保育  
藤森メソッド

GT givingTree  
全国保育園協会認定研修センター

# GT サミット 2023

8/7 [月]・8 [火]

来るべきA1時代。  
保育はどう変わる？  
保育理念を共有する理事長・園長先生が  
全国から集い、ぜひくばらんに  
語り合えるセミナーです。

参加資格: GT園

オフライン(現地)参加  
ワイム貸会議室高田馬場  
〒107-8555東京都港区高田馬場1-1-1  
参加費用: 17,000円(税込) | 定員: 80名(先着順)  
別途費用: お弁当代1,340円(税込)(持参可)

オンライン(ZOOM)参加  
参加費用: 17,000円(税込) | 定員: 100名(先着順)

講師: 渡邊寛子様(保育園を考える親の会代表)

8/7(月) セミナー1日目	8/8(火) セミナー2日目
13:30- 保育園の現状と未来展望	09:30- 保育園の現状と未来展望
14:30- 講演: 渡邊寛子様	10:30- 実践発表
15:30- 休憩	11:30- 昼食
15:50- 講演: 藤森代表	13:00- Q&A
17:50- 当日終了	15:00- 当日終了

参加申し込み方法:  
ポータルサイト「ポータル」の申込みフォームよりお申し込みください。  
<http://www.givingtree.jp>

お申し込み後、ご登録いただいたメールアドレス宛に詳細申し込み内容確認メールを  
ご送付いたします。お申し込み後、お申し込み内容が、お申し込み完了です。  
申込期間: 8/10(日) 18:00迄(先着順) | 申込受付終了後、申込受付が完了となります。  
お問い合わせ先: GT事務局(株式会社カギヤ) | TEL: 03-5744-8423

---

### 保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

---

#### —コロナの影響①—

いろいろなところで話をしているのでグブって聞く方もいると思います。いくつか考えていること話します。まず昨日話した一つだが、コロナがインフル並みになったことで、雇う人もいるし流行もあると思う。しかし、濃厚接触者を限定しなくていいとか、5日間休んでいけばいいくらいになった。それに対して、2020年から3年間一体どう過ごして、どう将来影響するのかの研究が随分いろいろなところでされています。私たちの仕事に影響することがあり、大きく2つ影響する年齢があるといわれています。世界中の問題だが対面授業になった。弊害が出たのが大学生。大学1年で入学してからコロナになり、ずっとリモート授業で、人の表情もマスク越しで、いわゆる大学生活をそう過ごしている。その子たちが3年、4年になり就活を始めた。もう一つが2年、3年生の頃にコロナになって、その人たちが就職して1年目、2年目の若者たちがいます。世界で共通していることがあります。イギリスの話が出ていたが、授業が対面になったとたん、2割が引きこもりになってしまった。出るのが怖い、人に会うのが怖いと、イギリスで2割いると言われていました。脳の研究が進んでいます。新聞に載っていたのが3万6,000の研究があるが、人を10日間一部屋に入れて人と会わせない、スマホもしない。人と接触することを遮断する実験があります。10日終わって、友だち同士楽しそうに会話している写真を見せると、脳の中脳が活発に動くそうです。それはすごく渴望していたと脳が動く。同じように同じ場所が動くことがある。それは10日間絶食させて、10日後においしいような食事の写真を見せると同じところが動く。人と会いたいと同じくらい動くといっても、人と会わない方が絶食するよりも2倍動くそうです。人は絶食するよりも人と会わない方が脳に影響してしまうという研究が出ました。マウスを2週間隔離します。マウスの2週間は人間の2~3年。他のネズミに接触させないと、普通ネズミは匂いを嗅いだり近づいたりするが、2週間隔離したネズミは隅へ行って関わりたがらない、他のネズミと関わることを恐れてしまう実験がある。人間が2~3年会わないでいると、会うことが怖くなる場合があります。イギリスの大学生で引きこもってしまったのが2割。就活をすると人と会いたくないということが世界中で起きているそうです。それを改善するプログラムがイギリスでは始まっているそうです。異年齢の異学年の人と話をすることから始めるそうです。国を挙げて、若者たちをどうにかしようとプログラムがはじまっているそうです。もう一つ問題があります。入学してから3、4年の子ではなくて、入学1年後からコロナになった人たちが就職をして就職1年目になります。そうすると、頭の中ではわかるけど1ヶ月経つと、人に何か言われると怖くなって職場に出なくなる。そして、引きこもりではないが、医者から少し職場から離れた方がいいと家で待機をする人が、ここ1、2年で就職した人に多く表れているそうです。世界中で問題になっていて、このトラウマをどう取り除くか。人に注意されるとか、最近の特徴は、そういうつらい目にあったときに親と一緒に言ってくるか、裁判を起こすことが世界中で起きているそうです。

#### —コロナの影響②—

私たちの身の回りにもあります。そういう意味でコロナはどれだけ影響しているかですけど、もう一つ影響しているのが012歳の時にコロナになった子たちです。その子たちは345歳になっています。昨日言った、5歳児の発達が遅れているというのはあるが、3歳くらいはあまり見られなかった。発達の遅れがないようなことが書かれるが、実はそうではなくて、その時期に母子関係で過ごしていると、今度は人を怖がるのではなくて、言語が出てこない。

言葉は、赤ちゃんは耳から音を聞くが同時に、表情から一致させている。大人がずっとマスクをしていると、表情が見えないので、言語が獲得できないことと、社会性・コミュニケーション。人と関わる力がなくて、345歳の中に自分の中だけで、いわゆるADHDのような子が急増しています。どこの園に聞いても、コロナ前から増えています、急にパニックになって物を投げるとか、共感協調することが出来ない子が増えています。もう一つ私としては問題と思うことが、私たちはこの子はちょっとおかしいと思うけど、親は違いますというパターンが以前は多かったが、今はこのくらい平気だろうと思っていても、親がすぐ相談に行く。そういう診断を受けたとか、親が行くことが多いです。就職の時に怒鳴りに行くのと同じで、親が心配で、すぐに行くことが多いです。問題があるのが助言するところがどれくらい専門性を持っているか。皆さんご存じと思うが、新聞や保育のチラシで支援する教室を開きます。数日間研修を受ければ相談員になれるとチラシが来るが、たったそれだけの研修で、そんな事言っているのと思います。助言の仕方がまちまちなんですね。本当の専門性があるかが疑問。親はそう思ってしまいますから大変です。臥竜塾という勉強会をしているが実家で幼稚園をしている彼が言うには、今年入った3歳児の8割は言葉がしゃべれませんと言っていた。今までも3までは家にいたが、今まではまだ他の人と話したり、地域と触れ合っていたが、コロナの間全く隔離されていて、家にずっといると、言葉は全然出ないということを書いていました。そういうことを含めて、コロナが今後影響するかということですね。それを考えないと、こういう間違いがあります。発表の中で出たが、たまたまうちの保護者の関係からだが、とある県の小さな町があります。町おこしで、うちの子が言っている保育園がいいからと紹介され、町全体が5000人、子ども園が1園、小学校が1校、中学が1校という町。町長がすごいのは、見守る保育を取り組もうと宣言しました。11月に再選して今年になって、うちにあいさつしに来ました。町全体で取り組もうと塾セミナーも町が予算を付けたから受けさせる。職員を交代で1週間ずつ来させています。この前も話したら素晴らしい実践だったが、コロナの影響だかわからないが、障害っぽい行動する子が何人いるそうです。この間、幼小中の話し合いをしたら、小学校の先生が「こういう保育を取り入れたからこんな子たちになった、こんなじゃ困るから元に戻してくれ」と言ったそうです。もっとバリバリさせてくれと言ったそうです。不幸に1校しかないので傾向が分からない。話を聞いたら取り組みが良かったが、1人パニックになる子がいて、お集まりに来ない。それを他の子が呼びに行き、促したけど来ないけど本人が来るまで待っているからねと言ったら、しばらくしたら、参加してきたという実例を話したら、小学校の先生が「こんなのは学級崩壊ですね、一緒に来れないような子がいる」と言ったそうです。なかなか難しいですね。本当の原因は分からない。

## —教育改革—

先ほど話もあったが、工藤先生の素晴らしい実践を麹町中学でやって、色々な改革をしたがそのあとに来た校長が、工藤先生の実践は元に戻します。校則は作るし元に戻ったと言っていた。本当に子どもにとって何がいいのかは進まない。イエナプランのオランダの方法があって、ペーターセンという人がドイツのイエナ大学で実践を始めたがその時に、今のイエナプランみたいに異学年でいろいろなことをすると、子どもたちが生き生きして学びが大きいと実践した。どんなにいいと言っても、その園が、その方法をしない限り、子どもは変わらないと言いますね。理事長・園長がこういう方法で行こうとなっても、どんなに説明しても無理と壁にぶち当たる。ペーターセンは考えた結果、トップダウンは無理。ボトムアップしていかないといけないと実践校を作って、実践をして研究所を作ります。それでも、うちがいいですというところは、変わらないというそうです。日本でイエナプランが広がっていますが、あれを広げた功績者はリヒテルズ直子さんだが、日本へ来て日本支部を作るときに、考え方が同じなので話をしていたが、イエナプランがいいと言っても、オランダの中でイエナプランをやっているのは、数校しかない。GTの多さに

びっくりする。特にオランダは教育の自由化と言って、人形を使った保育とか、教育の自由化がある。学区域の中に公立小学校があるが、オルタナティブといった新しい学校と、昔ながらの学校があり、保護者が選べるそうです。どんなにいいと思っても、中々そうならないことは難しい。コロナの影響なのか、私たちの保育のせいなのかということがあって、色々と模索している。

### —乳幼児教育の課題①—

たまたま中国からうちへある日中交流会の人が来て、中国の課題を話しました。私は日本においての課題に近いと思った。先ほど発表した水野さんがPCの中身を見せてもらったら、脳の感受性のグラフやヘッグマンの資料とか同じものを持っているそうです。あの資料を見て感じるのは、教育の中で最も重要なのは、乳児保育であることに気付き始めるんですね。全ての教育の基本は乳児保育だろう。いろいろな研究を見的过程中でそう思うんですけど、しかし、中国では幼稚園という3歳以上の施設は出来ているけど、乳児の施設はなかなかないんですね。現場に作れ、作れというそうです。そうすると日本の問題です。乳児保育、乳児教育はどこにもモデルがない。世界中が乳児を重視していなかった。乳児保育をするためには、何を根拠にするかということ、家庭での母子関係をモデルにしている。それで乳児保育を作ろうとする。中国では多くの園は病院で、看護師が面倒を見る形を取っているそうです。乳児保育の形を知りたがっているが1つ課題です。2つ目の課題は、家庭をモデルにしているが心理学。ピアジェを含め、心理学を保育の中に取り入れている。学問的に高めていることに貢献しているが、問題は心理学の根拠は子ども単体の追跡調査が主。子ども集団が基本にない。一人の子がどんな風に認知して発達していくかなので、複数の子がどう関わって、どういう風に研究が出来ない。ですから複数いる保育園はどういう保育をしていいかということ、基本的に家庭のお母さんのようにするか、心理学で出したような、発達をバックにして作られてしまう。どちらも問題が起きます。昨日話したように、人類の進化の過程では、子どもは単体で育てられていません。例えば、人類にはなぜ離乳の時期があるのか言われている。それには2つ理由があると言われています。離乳をすることでお母さんは次の年に次の子を産む準備ができる。いつまでも授乳したり、1対1で世話をしていると、基本的に生理が起きないで次の赤ちゃんが生めない。ですから例えば抱っこを2歳までしていたら、基本的に2歳まで生理が起きない。そのために離乳があるのが一つの理由です。もう一つの理由がお母さん以外の方が食事を上げられるメリットがあります。お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、そのほかの人。アロマザリングという考え方が出てくるんですね。お母さん以外の方が育てるのが、離乳がそのためにあると言われています。人類はいろいろな人に育てられ、その中で新しく発見されたのが社会脳が存在していることが分かった。人類はとくにホモサピエンスは、社会を形成して生きていくので離乳後に学んでいると言われています。人類は単体で育てられていません。子ども同士の中とか、多くの大人たちの中で育てられています。

### —乳幼児教育の課題②—

中国の方が言われた問題点の2つ目。1つ目は乳児教育が分からない。もう一つが日本も問題になっているが大学教授が何をやる人なのか見なおされてきています。大学教授は研究者なのか、教育者なのか？大学時代をどっちとして、学生を過ごさせるか。研究する機関として育てるか、学ぶ場所として過ごすかが大学の生き残りで迷っているそうなんです。そういう意味ではないが中国では、どう乳児保育をしていくかには大学教授は入らないそうです。日本の大学教授の話を知ると、わくわくして、そうだ、そうだと感動します。聞き終わった後に、では明日からどうしたらいいかが見えない。中国が求めているのは、明日からどうしたらいいか知りたい。大学教授の話を知っても見えないので、今はいろいろな講師は現場の人がやっているそうです。もう一つ、かつて日本の保育を見ると素晴らし

いと言っていた。しかし、最近は日本の保育はいろいろある。素晴らしいと言っても色々あるから、日本だからいいのではないんじゃないかと気づき始めている。どこをどう見て、保育を作っていいかに困っているという話をしました。

## —チャット GPT の出現—

違う意味でチャット GPT が出来て、生成 AI ができたら大学の先生は淘汰されると思います。チャット GPT の色々な記事がある。「大学の問題だが、世界で 1 億人以上が使う生成 AI。質問を入力すると会話するように答えが返ってくるのが特徴で、指示すればリアルタイムで翻訳もしてくれる。もはや英語を学ぶ意味があるのか。言語教育を研究する京大の教授は、必修だった英語が選択式になるここ数年で来るかもしれない。英語を学ばなくてもいい時代が来たのか。英語を基礎は大事、引き続き小中高での学習は続くだろう。ただ大学では必修科目ではなくてもいいのではと一部の大学で始まっている。チャット GPT はアイデアや専門的な資料を探してくれる。正しい回答かどうか人間には見極める力こそが重要。ただし、中学や高校での英語に影響はあるのかに対して、大いにあると思う。日本は英語を特別視し過ぎる。入試があるため、理系文系に関係なく誰も英語から逃れられない。他の教科は選択できるのに英語は特権的。やらされている生徒は少なくない。大学で英語が必修でなくなれば大学入試に影響を与えるかもしれない。入試が変われば中学高校も英語も選択肢になるかもしれない、他の科目と同等になりうるかもしれない。受験勉強のためにだけ英語に時間を取られ、本当に学びたいことに手が廻らなかったり、自分の時間を犠牲にして学ぶ必要がなくなる可能性がある。では変化はどのくらい先か。一足飛びとはいかなくても、ここ数年で起こりえる。チャット GPT は、それくらいのインパクトがあった。正確性やセキュリティの不安もあるが、チャット GPT を使えば、だれもが等しく英語を使うことが出来る時代になりつつある」。では、英語教師は必要なくなるのか。アメリカの学者が書いた論文では、AI の影響を受ける職業に英語教諭が 2 位に入った。3 位は外国語教師。10 位までの 8 つが教職員を占めた。「日本では 1997 年に大学の設置基準の改正で、科目ごとの最低単位が少なり、大学が自由にカリキュラムを設定できるようになった。結果、ドイツ語やフランス語といった第二外国語を廃止する大学も増加、多くの教員が職を失った。その時に教員たちは考えた。この言語を教える意味は何なのか。問い直しをする時期が来た。英語を学ぶことだけが異文化を知ることはない。生徒学生も同じ、なぜ英語を学ぶのか。英語を使って何をしたいのかを再確認するチャンスになればいい。英語がグローバルスタンダードであることは変わらない。ニュアンスや文化的背景を踏まえた高度な英語を駆使しなければならない通訳や翻訳家がなくなるとは思わない。チャット GPT は平均的なコミュニケーションは出来ても、それ以上は人間の知的差が必要だ」と書かれているが、これからの時代に必要な STEM。科学や実験が好きで発明をしているような人が、大学の理系を受験するときに皆英語で落ちている。科学だろうが文系だろうがどちらにも英語のテストがあります。そうではない必要な人材が振り落とされてしまっていることがチャット GPT で、変わるだろう。ただし、世界とコミュニケーションを取るにはもちろん英語は大事で、なくなることはないが、大学でやるのは、論文を書いたり読んだり、チャット GPT がやってくれるので、それによって本当の人材が振り落とされてしまうことが問題になっています。この間、全国の模試があって代々高いところが 1 位になっているが、英語が低かったですね。孫は 6 年生で英語をやっているが私は分からないですね。これを急激にやらされてしまっている。学校の授業だけで、あんなにやれるようになるわけがないですね。

## —自由保育①—

アメリカが教育暗黒史と言って、学力を上げたいと算数と国語に特化して、アメリカ全土の子どもたちに毎日ワーク。PISAの学力調査の前には、音楽や体育美術を削って、国語と算数のワークに明け暮れたことがあります。教育暗黒史と言われていたが、シンガポールはアメリカが捨てたものを逆に重視した。その結果、長期的に見たところ全て1位になった。国語と算数のワークをいっぱいさせて訓練させたアメリカは、どんどん下がってしまったことがあった。あのテストにどういう意味があるのかも。乳児保育・教育から大学まで教育は時代的にいろいろなことが見直されています。今の子どもたちにどういう力をつければいいのかがある。シンガポールへ行って学力が高く、軒並み1位で幼児教育を観に行ったら。実は参加するメンバーはみんな見た後、疑問を思った。何かというと、時間帯もあるが、いくつか見た中で、どこの園でも、子どもたちが自分でやりたいことを出して、友達同士で行う自由遊びがどこにもなかった。コーナーはいくつかつくられているが、先生が10人とかを連れて制作をやりなさいみたいなものであって、コーナーは先生が決めます。残りの園は、コーナーに行くけど中国語を教えたりしています。どこでも子どもたちが好きに、自由に遊ぶ姿はなかったですね。まず思ったのは、日本でも有名なSPARKという評価。シンガポールで、スパークの評価が2番の園へ行ったら。そうすると思ったのはSPARKの評価基準には、自由遊びをしているという項目はないのだろうかと思った。どこもしていないのに2番目なのを見た時に、SPARKの大阪版を作ろうとOPARKというものを作ったら、埋橋先生論文を読んでみた。そうしたらのまとめに、「SPARKのためにシンガポールの何園かを訪ねた。しかし、シンガポールは、欧米で推奨されているような、自由遊びはどこにもなかった」と書かれていた。やっぱり、どこにもないのだと思った。自由遊びは、欧米だけで推奨されているのかといろいろ調べている。かつて私がブログで、テキサス州で大量射殺事件が起きた事件を研究したブラウンという人が、自由遊びの大切さを言って、世界中に広がったが、最近の本の中でないか調べたら、こう書かれていました。実際は小学校みたいなんですね。遊びに関しては1981年に比べて1997年の間に25%遊びが減ってしまった。1世代の半分の16年間に起きた。この調査の遊びの分類には、ボードゲームやコンピュータゲームの屋内遊びと、屋外で遊ぶが含まれている。コンピュータゲームの遊びは、急激で1981年時点にほぼ0だと思われるが、その分屋外で遊ぶ遊びよりもはるかに多くなっていると予想できる。この調査に参加した6歳から8歳の子どもたちは1997年時点で、平均の遊びはコンピュータゲームに費やす時間を含めて11時間強だった。1997年から学校の勉強の増加は32%の増加、遊ぶ時間のさらなる低下だったそうです。同じ研究者による2003年の調査で明らかになった。なぜ子どもたちが遊ばなくなったのか。親たちの答えは2つ。一つは子ども自身好み、2つ目は安全への不安。とくに親たちはTVとゲームの魅力が要因だと言います。けれども子ども自身の調査では、友達と外で遊ぶことを好んでいる結果が出ているそうです。子どもは意外と、外で遊ぶことを好んでいることが出たそうです。他の活動との比較を見ると89%がTVを見るより、外で友達と遊ぶことを好み、86%がゲームよりも外で遊ぶことを好むと答えた。それなのにTVとゲームに明け暮れている。その理由は面白くて学べるからと言っている。そうすると、自由な遊びの衰退は子ども時代に多大な犠牲を強いていると言います。今日中流階級で見かける典型的な子ども、例えばエバ11歳。平日はスクールバスに乗り遅れないよう、着替えて簡単な朝食を食べないといけなくて6:30に置きます。歩いて登降したほうが短い時間で行け運動にもなるが、アメリカは危険だからと歩いていくことは許されません。学校ではほとんどの時間を座って過ごし、教師の話聞き、テストをし、読むように言われたら読み、書くように言われたら書く。以前はあった30分の休み時間を廃止してしまいました。ケガと裁判沙汰をなくすため、州レベルの試験のため。親はすぐに裁判をするのと、州レベルの試験のため休み時間を削っているというんですね。放課後、エバの時間は多様なスキルを身につけるためと、面倒なことに巻き込まれないよう親によりスケジュールされています。月曜日はサッカー、

火曜日はピアノ、水曜日は空手、木曜日がスペイン語といったように、夜はTVを見るかゲームをした後、2時間ほど宿題をして、確認として宿題帳に親が署名します。週末は試合や日曜学校など友達と一緒にいる時間は少しはありますが、誰かの家です。エバの親はたくさんの活動に参加していることを、いつも本人の選択だから、彼は忙しく時間を過ごすことが好きだからと強調し、自慢するのが好きです。両親は7年後、エバが一流大学に入学する準備をすることを思いこんでいます。エバはそれに向けて準備しているかのように見受けられます。ときに自分が燃え尽きていることを認めたくることがあります。というアメリカの現状を言っています。基本的に、すべて大人が時間をコントロールして遊んでいることが多い、とくにアメリカの小学生の話が主です。

## —自由保育②—

私はこう思いました。園で設定保育の時間帯があります。実習生は、設定保育の時間が責任自習として保育を任せられます。後は自由に遊びます。ふと、こう考えました。発達特性を読むと、「発達は、子どもの経験をもとにして、自ら環境に働きかけ、環境と相互作用により新たな能力を獲得していく過程」。発達段階と言ったときまず、子どもたちはいろいろな体験をしなくてははいけません。これは面白いな、不思議だな、など思うことが心情です。それを自分でやってみたい、触ってみたいは、環境に働きかける意欲。あそこまで面白そうだから行ってみようという態度に表れ発達が進む。日誌にしても責任自習にしても、設定保育が保育だと思っていたのは全くの間違いではないか。設定保育は、子どもたちに色々な経験をさせる、色々な心情を生むために先生が計画させることで、そこで生まれた心情を自由遊びの中で自らやることによって始めて、発達していくと。昔は、設定保育が保育で、自由時間はほっておく時間とっていたが逆だろう。子どもが発達していくのは、自由遊びの時だろう。その時にどれだけ意欲的に環境にかかわろうとするのが、設定保育の中で心情を付けているかどうかということが影響するのかもしれない。大事な保育は自由遊びの時間帯。子どもたちが誰と何をするかを選び、大人のルールに縛られず遊ぶ中で、色々な能力を獲得していくのだろう。学校は認知的なものなので、座って話を聞くのが授業。休み時間は、休憩時間というイメージがあるので設定保育こそが保育で、そのほかが自由時間とっていたんじゃないかと気づきました。そうではなくて、本当の発達に影響するのは、自由の時間。誰と何をするか、その時に異年齢であるのか一概には言えないが、経験がないと何かをしようとしません。それを先生がこんな経験をさせてみようが、ある意味、設定保育の時間と言われているのかもしれないと思うと、私たちが記録しないといけない保育日誌は、設定保育の時間ではなくて、自由保育の時に、どの子がどんなことに取り組んでいるのか。どんな発達しているかを記録すべき様な気がしたんですね。そうするとシンガポールで観た時に自由時間がないのはどうか。自分の子どもを持った時に、私の子どもは幼稚園でした。幼稚園の時間内は基本的にすべて設定保育です。しかし昔は帰ってきた午後は、兄弟で好きに遊んでいた。その中で幼稚園でやってきたことを改めて遊んだりしていた。午後は子ども同士、うちの場合は兄弟でしたが、午前中でやって興味あることを家でやっていたのだろうと思うんですね。アメリカのブラウンの研究では、家に帰った後も習い事に埋め尽くされている。自由に遊ぶ時間が子どもにはない、と書かれています。アメリカではなぜ自由時間がないと問題なのか。ブラウンの研究結果だが、大人の常にコントロールで自由に遊んでいない子たちは、急変して殺人を起こしてしまっている。6,000人の成育歴を調べた結果、自由遊びをすることがなかったと分かった。私たちももう一度、保育園の時間をどういう時間にどういうことをするかがある。そうすると午後はせめて、子どもの発想をどれくらい許容できるか。先生が監視するのではなくて、その時間帯は見守る。その時間帯が大事な時間帯ではないかと分かりました。それらが欧米で奨励されていると書かれているのは、中国やシンガポールを見ると、受験の激しい国は自由遊びが奨励されない。良い点を取るため、偏差値を上げるための時間に取られ、欧米のように試験がどうかの

国では自由の発想ということがあります。中国で課題を言ったもう一つが、中国では、ノーベル賞を取っていない。学力が高い、数学オリンピックも満点だが、ノーベル賞を取っていない。政府はノーベル賞を取れる人材を育てたいと言っていました。受験戦争から脱皮しようとしています。日本はどちらへ行くかがある。

## —藤森メソッドについて—

私は改めて、藤森メソッドという名前にしたのは、私が考える保育は何も、見守るだけではない。それに気づいたのが保育用語辞典。その中にチーム保育の項目があって、新人にベテランを付けてチーム保育することで補助金が出る制度と書かれ、途中から藤森が考えるチーム保育とは、多様な人で子どもたちを支え合うというような解説が書いてありました。そう思ったときに、異年齢児保育は私の考えているものがある。いろいろ調べると、これからの時代必要であって、ヨーロッパもそこまでいっていない。ある法人の研修でアメリカの環境評価スケールを使っているということがあったので、私はそれを使い続けることは危険ですと言った。環境をどう作るかは参考になるし、私たちと考え方は同じですが、1回作ればいいので、問題は子どもの保育ですね。アメリカの環境評価スケールは、先生がどれだけ子どもたちに介入しているかで決めてしまう。うちで受けた時に、絵本を読むときに子どもが真剣に読んでいるときに、先生は何ら刺激を与えなかったので0点ですと評価を受けたが、私は、真剣に読んでいるなら放っておいたらいいと思っています。介入と言っても、色なのか、ストーリーに感動しているのか分からないので、深入りしてやってしまうと、アメリカが危惧している自由遊びが減っていることがあり、問題と思うのと、5カリキュラムのベルギーの経験による教育。あれは子どもの安心度と熱中度を測る。それをやってみたら、えっ! ?と思ったのが、ある子が虫取り網を持ってきて、セミを取ろうとしたら逃がしてしまった。網を引きづって、歩く姿を見た時に、子どもが熱中していない、安心していないのでダメと言ったときに、私は不貞腐れることも大事だろう、そこから立ち直る力を身につけるのではないかと思う。そう思って、評価は難しいと思った。最近いろんなことで結びつく。その中のもう一つだけ思ったことだが、子ども家庭庁が子ども基本法を作った。子どもの権利条約を成文化する法律ですね。それ自体は待ち望んでいたことだが、各地で研修会が行われると思います。しかし、どう考えても大学の先生はそれを読み上げるだけです。世界中が課題になっているのが、民主主義が衰えてきていることが危惧されている、日本の教育基本法の中にも、平和で民主的な国家や世界を作ろうと書かれているが、いわゆる民主主義の在り方。それを一部の人に研修で話をしたが、民主主義の成熟度をイギリスが調査した結果、日本は最下位に近い。問題なのは、財政赤字と反比例する。民主主義の成熟度が低い分だけ、財政赤字が多いことが問題。世界中で特に日本は低い。何で調べたのか、何の指標かの一つが投票率。昨日どこかで投票があって、投票率10何パーセント。それは特殊な例だが、日本の若者の投票率は30%前後。これに対して成熟度の高いスウェーデンは投票率80%。なぜこれだけ違うのか。日本の若者に聞くと、自分が入れた1票では大して変わらないからというのが割と大きな理由です。スウェーデンは1票で変わるかもしれないと思っている。それが調べてみると、それが乳幼児教育にあると思っています。私保連の通信に書いてあったが、スウェーデン研究をしている人が1年間留学し、自分の子が下の子が2歳、上の子が5歳、現地の保育園に入れました。幼稚園に行った初めての日、園長が出て来て、2歳の子に「今日は外で遊ぶ? 中で遊ぶ?」と聞かれ、自分で意見を言えてかなえられるんだとそれが繰り返されている。日本はそんなことを聞かれない、今日は〇〇しましょう。それが自由遊びに繋がっている気がするんですね。大人がコントロールする、その方が安全だから、安心だからが多くの理由。スウェーデンはいろいろなことに対して、自分の意見が影響を及ぼすことが出来る体験を積んできている。大人になっても、自分の一票が何かしら変わると思っている。日本は諦めで、先生が言ったとおりにするしかないとなると、私たちが進めている保育は多くが選択です。選択は民主主義の



基本。参加するというよりも、参画できる権利。子ども自身が決定できることです。その積み重ねることによって昨日の渡邊さんの話ではないが、意見を言って帰ることが出来るだろうと思っている。それをすべてシャットダウンされていては意見を言わなくなる。全体が繋がっていると思うが、こちらからの話はこの辺りでありがとうございました。

本稿は、2023年8月8日に開催した「GTサミット2023」のQ&Aの内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)